

物部川清流保全推進協議会「山の保水力の回復を図る WG」 要旨

日 時： 令和4年2月2日（水）13：30～15：00

場 所： WEB 会議

参加者数： 24 名

1 物部川流域治水の説明について（報告）

高知河川国道事務所より、物部川における流域治水について説明を行い、集水域における NGO 等による土砂流出抑制に資する取組を支援するため、物部川清流保全推進協議会の枠組みの中での支援策の検討について提案した経緯の報告を行った。

【主な意見】

- 気候変動により従来の治水では限界があるため、集水域対策を行うとの説明だが、山の保水力だけで対応できるのか。
→集水域対策だけでなく総合的に対策すべきと考える。

2 活動団体の取組の課題及び促進のための方法について（協議）

高知県木材増産推進課及び治山林道課より、高知県で実施している上流域での森林整備状況の報告を行った後、活動団体と取組状況や課題など意見交換を行った。

【主な意見】

- これまで小学校と連携した環境教育活動や水辺林（河畔林）整備、イベントなど啓発活動を地道に実施している。今年は新型コロナウイルスの影響で実施できていないものがあるが、継続して活動すべきと考える。
- 河畔林整備は、モデル地区を設定して啓発していけばよいのではないか。
- ボランティア活動は、多数参加してもらえよう工夫しながら継続していくことが必要。
- 山と川の接点である河畔林整備は行政の施策として実施できないか。
→河畔林整備に特化した補助は現在なく所有者の同意があれば整備できるのが現状
→森林環境譲与税は意向調査に時間を要している。また河畔林に特化していない。
- 山の現状を見ることが重要。今は山の保水力というレベルではない。団体の活動だけでなく協議会で現場を見るなど企画してはどうか。
- 流域3市（南国市、香南市、香美市）の森林整備計画には河畔林整備と記載しているが、実施できていない現状。今やらないといけない時期に来ている。
- 活動団体の支援というよりは、行政から山の整備のため、不足している取組・必要な取組など示してもらったほうが団体としてはありがたい。
- 流域治水で集水域対策が必要とのことだが、予算を伴うこともあり、国・県・市が連携して取り組んで欲しい。

3 活動の中長期目標について（協議）

事務局より、総会で意見をいただいた中長期目標（案）の説明。

【主な意見】

- 人工林の間伐整備は人工林面積や間伐実施状況を見ると一回りの整備で80年かかると思う。流域治水の説明で、流量増加に河川整備が追いついていないため集水域対策を含めて対策することだが、不足分に到達するための指標などはないか。
→指標というのは出せないと思うし、どの地域もそういった指標までは設定していない。
- 森林整備を行う上で所有者不明が問題となっているが、解決の方法はあるか。
→森林環境譲与税の取組で意向調査を行っており、解決の一助にはなるかもしれない。
- 指標のひとつとして、森林管理の効果を計るため森林土壌の調査など加えることはできないか。
→調査をすればなんらかの結果は出るが、それが効果を計ることにつながるか疑問である。

【WG 検討結果】

- 行政側で不足している取組や重点的に実施する取組、優先順位などを整理する。
- 山の保水力の回復を図る WG で現地見学会を企画する。
→現地見学会は次年度実施の予定。実施に向けて2月中旬に関係者で協議を行う。